



第16回「Qの会」

研修会報告

平成24年10月28日香川大学において、第16回「Qの会」研修会が開催されました。

今回の研修会は「カーボカウントの基礎と活用」「カーボカウントを用いた栄養指導」のテーマで行いました。

講師に、徳島大学糖尿病臨床研究開発センター黒田暁生先生・徳島大学病院栄養部松村晃子先生をお迎えしました。

黒田先生の講演では、カーボカウントとは何か、カーボインスリン比とインスリン効果値などの基礎から、ご自身の数多い御経験の中からその活用方法についてわかりやすく教えていただきました。そして、軽快なBGMに乗せて、ご自身が1型の糖尿病患者さんであること、この悩みを微塵にも見せず、コントロール次第でなんでも食べられるという、制限ではない食事療法を教えてくださいました。

松村先生は、管理栄養士の立場からカーボカウントの実際の指導方法や、簡易計算法による糖質量の算出方法について講義いただきました。また、徳島大学病院におけるカーボカウントの導入の実際の症例を通して、導入の効果と問題点について考えることができました。カーボカウントを導入する際の今後指針とすることができました。

希望は「小児糖尿病」「認知症」「糖尿病とうつ」「1型糖尿病」「癌と糖尿病」「妊娠糖尿病」「糖尿病合併妊娠」「禁煙について」「血糖マネージメント」「糖尿病腎症患者の看護」「透析患者の栄養指導」などがありました。

その他の意見として「託児を希望するので検討して欲しい」「WEBやメールで研修会の申し込みができるようにしてほしい」「研修会の回数を増やしてほしい」という要望がありました。

なお、今回の研修会には栄養士の方の参加が多くありました。アンケート結果は、下のグラフも参照ください。

アンケートにご協力頂きありがとうございました。皆様の意見を参考にしより良い会にしたいと考えております。



研修会のアンケート結果

第16回研修会参加者51名のうち46名より回答をいただきました。

参加されたきっかけは「テーマに興味があった」が最も多く、次に「講師が魅力的だったため」「専門性を高めるため」となっています。

講師・内容について講演I・IIについては、「おおいに良かった」「良かった」という意見ばかりでした。その理由として「講義Iでは、「カーボカウントが身近になりトライしてみようと思った」「テンポよく話して頂き、あっという間の時間だった」「具体的な例が沢山有り良かった」「食品交換表とカーボカウントの指導の違いが分かった」であった。講演IIについては「実際にしている指導方法でわかりやすかった」「臨床の場で活用できる内容であった」「穏やかな口調でわかりやすかった」「具体的な指導ツールが実際にあればなお良かった」などがありました。

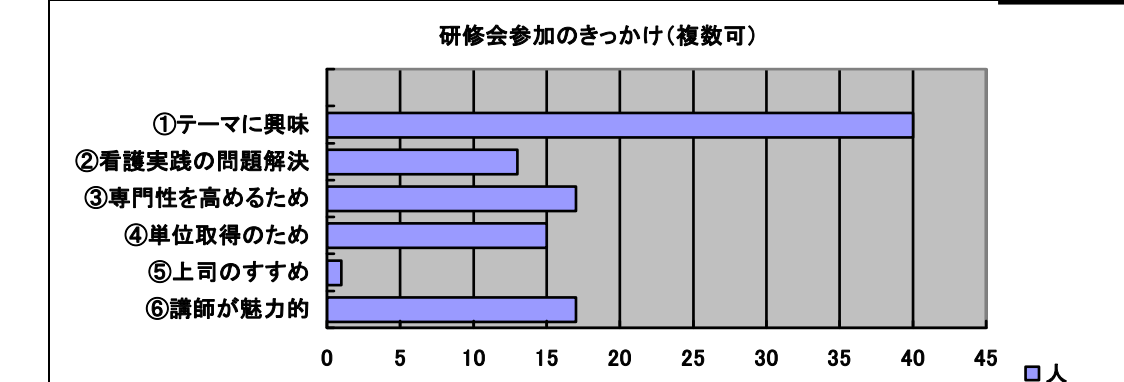
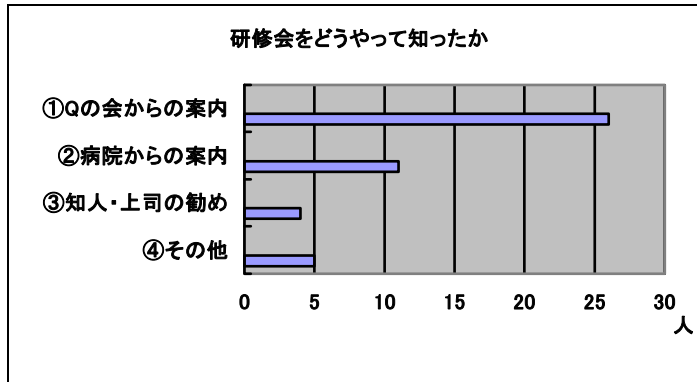
今後の研修内容についての希望は「小児糖尿病」「認知症」「糖尿病とうつ」「1型糖尿病」「癌と糖尿病」「妊娠糖尿病」「糖尿病合併妊娠」「禁煙について」「血糖マネージメント」「糖尿病腎症患者の看護」「透析患者の栄養指導」などがありました。

希望は「託児を希望するので検討して欲しい」「WEBやメールで研修会の申し込みができるようにしてほしい」「研修会の回数を増やしてほしい」という要望がありました。

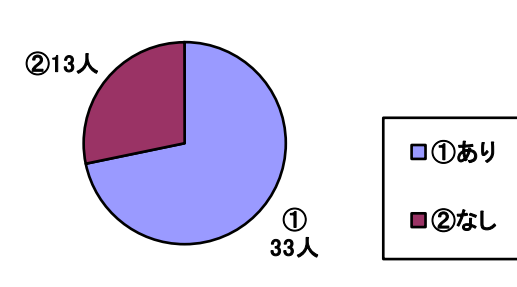
なお、今回の研修会には栄養士の方の参加が多くありました。アンケート結果は、下のグラフも参照ください。

アンケートにご協力頂きありがとうございました。皆様の意見を参考にしより良い会にしたいと考えております。

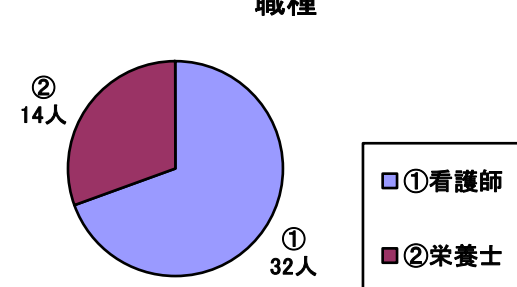
希望は「託児を希望するので検討して欲しい」「WEBやメールで研修会の申し込みができるようにしてほしい」「研修会の回数を増やしてほしい」という要望がありました。なお、今回の研修会には栄養士の方の参加が多くありました。アンケート結果は、下のグラフも参照ください。



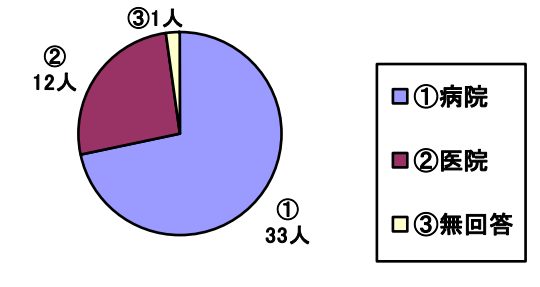
療養指導士の資格



職種



所属



研修会風景

学会・研修会のご案内

認定更新のための研修単位が取得できる予定の研修会をお知らせします。

- ★第56回日本糖尿病学会年次学術集会・・・第2群4単位
日時：2013年5月16日(木) 18時～21時10分
場所：サンポートホール高松
連絡先：FAX 092・712・6262
- ★行列ができるスキルアップ研修会PartⅣ・・・第2群1単位(申請中)
日時：2013年5月17日(金) 18時～21時10分
場所：サンポートホール高松
連絡先：FAX 092・712・6262
- ★第25回「糖尿病診療」最新の動向―医師・医療スタッフ向け研修講座―・・・第2群1単位
日時：2013年6月22日(日)
場所：国立国際医療研究センター「東京会場」
連絡先：FAX 03・3202・9906
- ★第1回日本糖尿病協会療養指導学術集会
日時：2013年7月27日(土) 12時～18時
場所：国立京都国際会議場
連絡先：FAX 03・3514・1725
- ★第13回「日本糖尿病情報学会年次学術集会」・・・第2群2単位
日時：2013年8月23日(金) 12時～18時
場所：あわぎんホール
連絡先：FAX 088・633・7589

「つれづれに思うこと」・看護の変化

会長 宮武陽子

近年の臨床状況の変化とともに看護事情も大きく変わりつつある。入院期間の短縮が病院の生き残りをかけて取り組まれるようになって、慢性病者の経済的負担を軽減する一方、退院後の慢性病者の支援体制の未整備が様々な問題を招来している。急性期医療に焦点化された現行の保健医療福祉体制の限界が指摘されるなか、未だその解消への道は遠い。そのような中、慢性疾患ケアモデルの構築に向けた研究活動が進められている。慢性疾患ケアモデルは、慢性疾患の病期の各段階に心じた治療やケアを提供し、その成果を科学的に検証し、よりエビデンスに基づいた質の高い医療を提供するというサイクルを繰り返すことにより、慢性疾患全体の発症、進行・悪化、重症化を抑える医療提供システムづくりを目指している。質の高い医療を提供し、慢性疾患にかかる医療費の削減という社会的ニーズに対応していくためには、こうした現状の看護を変革していく力が求められている。

また、教育現場では、医学的知識と技術を看護ケアに融合したより高い実践能力を具えた高度実践看護師教育プログラムが導入されようとしている。さらに、その修了後に進学できる博士の教育プログラム(DNP)が導入されつつある。高度実践看護師やDNPが現場において活動する日はそう遠くない。おそらく専門看護師と同様の勢いで広がっていくだろう。

看護師になって40年余り、ここ数年の看護の動きはさまざま感じている。変化を憂える気持ちと変化に期待する気持ちが交錯する。ますます高齢社会が進行する中で、看護の将来像を見据える確かな目と、将来に向かって我々が今なすべきことは何かをしっかりと考える態度がいま求められているように思う。

第17回「Qの会」研修会・平成25年度総会の案内

日時：6月23日(日) 10時から16時30分
場所：香川大学医学部看護学科3階305教室(看護学科棟3階)

メインテーマ 『認知症と糖尿病看護・患者の理解とケア』
講師：香川大学付属病院 精神・神経科 病院助教 森 崇洋先生
東明介護支援センター 介護支援専門員・看護師 三好真寿先生
香川県立白鳥病院 認知症看護認定看護師 藤井智子先生

◆編集後記：寒い冬も過ぎ、また総会の時期です。Qの会発足し約9年の月日が経ちました。初心を忘れず発展していければ良いなあと思っています。
広報担当 木村裕美・串田久美